

# 職場における交通安全指導

Part 105

## 小型保冷車が駐車場でバックした際、後方の高齢者に気づかず衝突

### ■事故の概要

- 発生日時  
日 時：平成23年7月某日 午後4時頃  
天 候：曇り
- 道路状況  
マンション駐車場内
- 事故の当事者  
運転者A（小型保冷車）：32歳、男性  
被害者B（歩行者）：82歳、女性
- 被害状況  
B：頭部骨折、脳挫傷



### 事故状況

運転者Aは、個人宅を中心に食材を配送する仕事に従事し乗務経験が8年目になる中堅トラックドライバーです。

事故当日の天気は曇りでしたが、7月に入り気温が連日30度を超える夏日が続き、昼を過ぎたあたりから疲労感が出はじめ、注意力が散漫になりボーっとしていました。

配送ルートは新規顧客が入らない限りいつも決まっており、今日もマンションへの配達を終え、次の配送先に向かおうと、駐車場に停めたトラックをバックさせたところ、マンションの玄関から買い物に向かおうと歩いてきたBと衝突してしまいました。

スピードは出ていなかったため衝突による衝撃は少なかったのですが、Bは82歳と高齢のためバランスを崩し転倒、頭をコンクリート地面に打ちつけ頭部骨折および脳挫傷の傷害を負ってしまいました。

運転者Aが運転する車両は、バックモニター付きの小型保冷車でした。

### 事故の原因

- ①連日の暑さからか注意力が散漫となり、周囲への安全確認を怠った。
  - ②いつもの配送先のため気持ちの油断があった。
  - ③配送を終え次の配送先に向かう事だけが頭にあった。
  - ④バックモニターに頼りすぎ、死角を意識しなかった。
- などの事由から不用意にバックしたことが原因といえます。

また、駐車する際、前向き駐車したことも原因の一つといえます。

最近、バックモニター付きの車両は増えていますが、バックミラーで後方が確認できない車種には大変便利な機器ではありますが、万能ではありません。左右から来る歩行者や自転車がバックモニターに映った時はもう遅く衝突に繋がるケースがあります。また、上方の障害物はバックモニターには映らない為、死角による衝突事故も多いのが現状です。

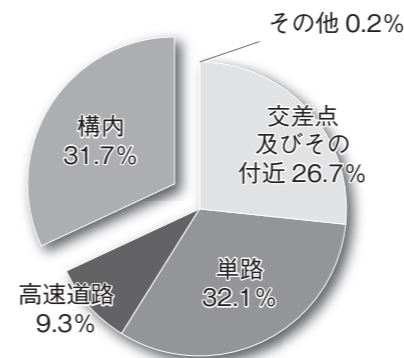
バックモニターがあるからといって安心せず、バックする際はモニターがなかったときと同じように、緊張感をもって運転する必要があります。

### 安全指導

#### ① 駐車場や構内でおきた事故の大半がバック時によるもの

駐車場や構内は、低速での接触などによる軽微な事故が多いので、ニュースや新聞等で大きく取り上げられ注目されることはありませんが、対物事故の約3件に1件が発生する大変事故の多い場所です。場合によっては、死亡事故に繋がるケースもあるので、決して軽視はできず、当組合においても、構内事故は、交通事故防止の重点項目の一つに掲げ、最重要課題として取り組んでいます。

平成27年度 道路形状別対物事故発生状況



平成27年度 構内における後退事故発生状況

|       | 構内における対人(12件) |        |       | 構内における対物(513件) |        |       |
|-------|---------------|--------|-------|----------------|--------|-------|
|       | 車両相互          | 車両相互以外 | 計     | 車両相互           | 車両相互以外 | 計     |
| 後退事故数 | 2             | 5      | 7     | 43             | 243    | 286   |
| 構成率   | 16.6%         | 41.7%  | 58.3% | 8.4%           | 47.4%  | 55.8% |

また、平成27年度の当組合で発生した構内の事故を見ると、対人58.3%・対物55.4%とどちらも半数以上が今回の事故のようにバックによる事故であることがわかります。バックする時は細心の注意を払って運転するとともに、事故になる要

因やパターンを十分理解し、駐車場・構内での事故防止に努めましょう。

#### ② 駐車場・構内での事故は、安全確認の不徹底によるものが多い

駐車場・構内は、一般道と比べ、走行速度も遅く交通量も少ないことから、注意力や緊張感が薄れ、周囲への安全確認も疎かになりがちで、そうした気持ちの油断が事故に繋がる要因の一つになっています。特に駐車場においては、思わぬ自転車や高齢者、子どもなどの飛びだしにより事故になることがあるので、細心の注意を払い、運転しましょう。

また、バックする時は車から降りて目視で周囲を確認するのが基本です。ただ最近は、バックモニター搭載の車両も多く、車から降りないでバックするケースが散見されます。車から降りないでバックする場合は、駐車場や構内に進入する際、停止場所や周囲の状況をしっかり確認してからバックするよう徹底した安全確認を心掛けましょう。

#### ③ 事故防止のポイント

駐車場や構内を安全に走行するための大事なポイント、実践されていますか？

◎駐車場・構内では、徐行運転、またバックする際は人がゆっくり歩く速度で進行。

◎発進時は、車に乗り込む前に周囲を一回りして障害物や、子どもがいないかなど安全の確認。

◎バックする際、同乗者や関係者がいる場合は、誘導を依頼。

◎駐車場・構内から一般道への出入りの際は、必ず歩道手前で一時停止、周囲の自転車や歩行者、対向車がないか安全確認を十分行い入庫。

梅雨時は、湿度や気温が高く、疲労が溜まりやすい季節です。体調管理をしっかり行い、自分の体を労わることもプロドライバーとしての重要な仕事です。

事故を起こさない安全な運転を日々心掛けましょう。